

医療・環境保全・農村開発

医療支援

一人でも多くの命を救うために

父親の死を乗り越えて

臨床検査技師コース2年生・ザイラ近況
母親ナプサさんと同じく、地域の住民や母子の命を守る医療の道を目指していたザイラ。父親でカワス村の村長だったジョニーさん（ハッサン）が、凶弾に倒れたのは臨床検査技師コース進学を控えた5月29日でした。

父親の死を乗り越え、私たちの医療系奨学生として、予定通りカレッジへと進み2年生後期の今は、実習の時間も増えて、熱心に取り組んでいるそうです。



産後検査を兼ねて月例ミーティングに参加した母子退院時に贈られた新生児の写真を持参した。紫のスカーフが代表のナプサさん。

4年目を迎えた助産所の運営



保健省および保険局の認証を受けた助産所は、この3年余り、モロ民族等貧困世帯の母子の命を守ってきましたが、保険未加入や入院費未払い患者がいる中、収支は厳しいようです。助産所をやめれば楽になるという思いもよぎるとか。私たちとしては今しばらく医薬品や人件費支援で見守りたいと思います。

患者支援のためのヤギ飼育・短信（ボルル村の患者支援事業）

収益で貧困世帯の患者支援をという趣旨で始めたヤギ飼育。3か月を経た4月初め、「残念なお知らせですみません」と13匹のうち4匹が死んだという報告が届きました。地元産はすべて元気ということで、4匹は山の気候に合わなかったのかと、ヤギ飼育で成功しているレイクセブ境界のアニータ先生に確認したところ、「虫下しを飲ませたか」の助言が届きボルル村のボニファシオに伝えました。一方、2匹がすでに妊娠したという朗報も。今後に期待したいと思います。

環境保全・農村開発の活動

ビラーンの村・チボリの村で小規模アグロフォレストリー継続中です

コロナダル市境界のヌガバンゴ村から

4月の初め、「枯死率25%は予想よりやや高めだが、住民は残る苗木の手入れに頑張っています」のコメントとともに、移植5か月目の各種苗木の写真が現地窓口TBA/Tud Bolul Associationの事業責任者ボニファシオから届きました。このビラーンの村ヌガバンゴは、当初予定のチボリ町マアの代替地です。新型コロナウイルス感染拡大の中、行政域を超えた事業管理ができないため、TBAが位置するコロナダル市内の村での実施となりました。緑を残し、また、増やして収入向上を図る森林農業の実りに期待しています。

生態系回復に重要な在来種の苗木育成

「先住民族の生活の場である山岳部では、在来種樹林と樹木作物栽培を組み合わせることで、熱帯の生態系保護と持続可能な収入源獲得が可能である」と、私たちも約20年間大小各種のアグロフォレストリー事業を実施してきましたが、在来種は成木になるまで20～30年を要するものが多く、短期的収入向上に期待する住民が自ら進んで植林するケースは多くありません。長くチボリの教育にかかわってきたアニータ先生は、子どもから親へ、住民へと伝える方法で、これら在来種の苗木育成も推進してきました。多様な植物、動物が生きる熱帯の生態系回復の重要性を伝え続けています。

右から、スラチン、果樹苗、ブ、ドリアン、マンゴ



先住民族学校の敷地に2、3本残る在来種ナブルの木。その根元に生え出た多数の実生。これをアニータ先生の指導の下、一本一本、丁寧にプラスチック製の鉢に植え替えて日覆いをした小屋で大切に育てています。

ハンディクラフト共同出荷と漢方薬研修・製造で女性の収入向上・健康増進を目指します

ティヌオス女性組合・今年の活動計画より

当団体が20年近くかかわってきたレイクセブ町中心部の組合COWHED同様、2年前に設立のティヌオス女性組合も、竹細工などハンディクラフト共同出荷に加えて、家族の健康を守る活動も始めることになりました。コロナ禍でニーズが増す漢方薬研修、製造のため、これまでの製品展示コーナーを、薬草を煎じたりする調理場を備えた施設に改装することになりました。アニータ先生を通じて受けた支援要請に、その経費の一部を新年度予算案に計上しました。



ジェネラルサンクト市にも新たな販売路を開拓した女性組合自身